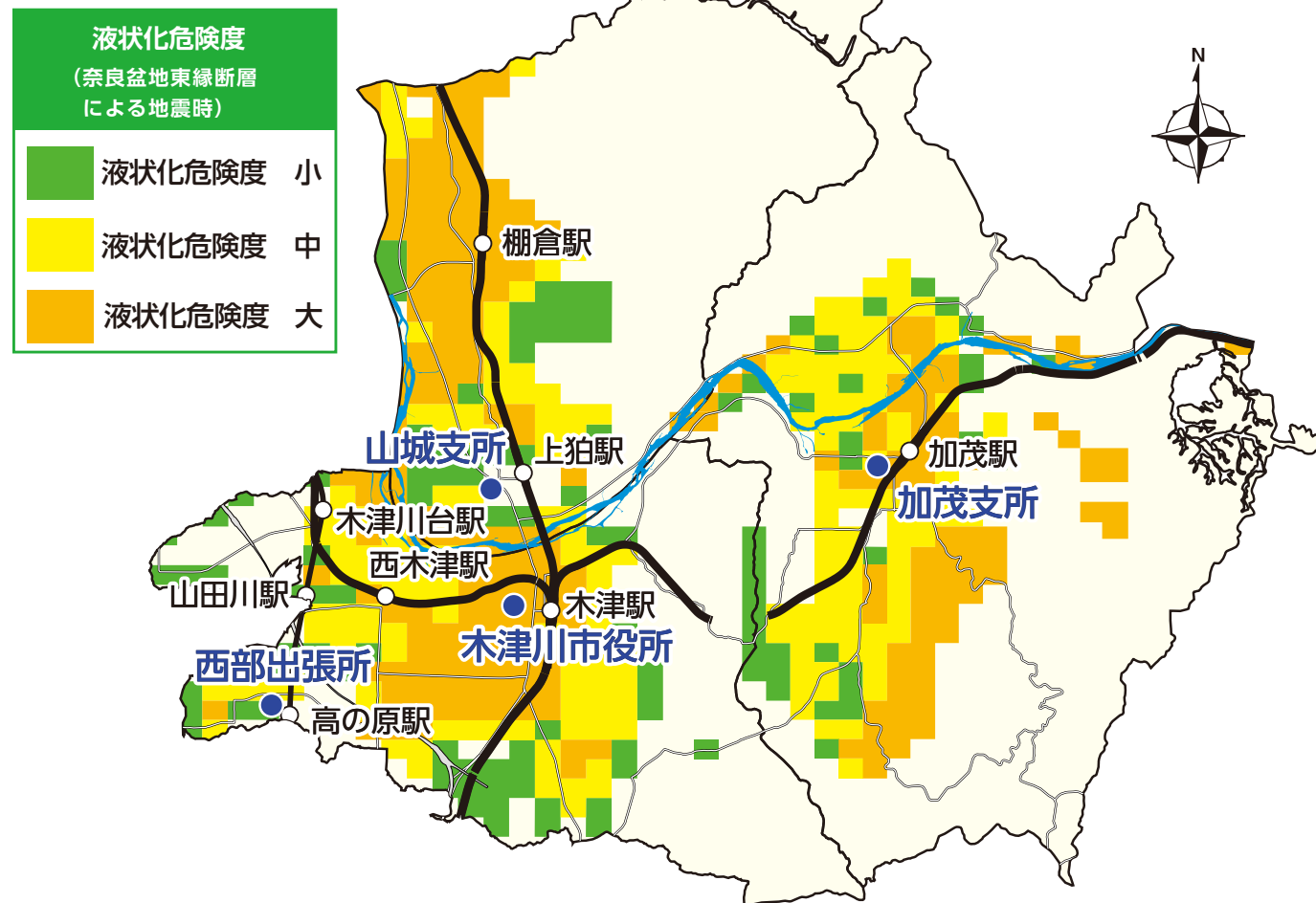


液状化危険度

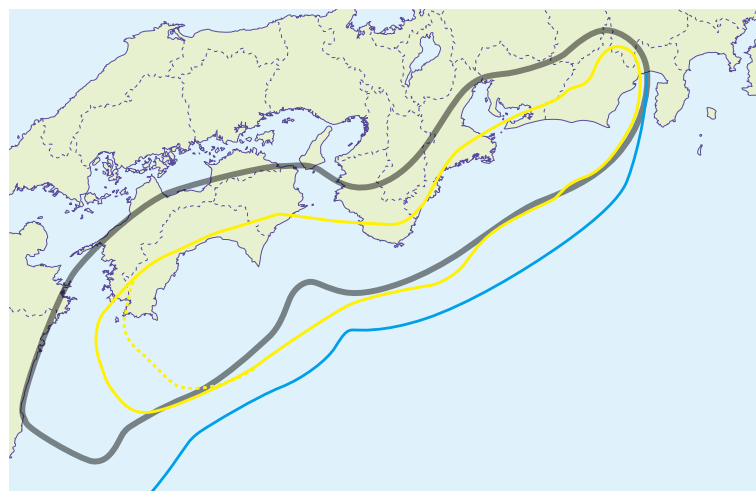
液状化マップ

液状化マップは、「揺れやすさマップ」で示した強さの揺れが起こった場合の「液状化の可能性のある範囲」を、「揺れの大きさ」と「地形」から判読し、メッシュごとの地域単位で示したものです。

※このマップに示す「液状化の可能性のある範囲」は、揺れの大きさと地形による簡易な予測であり、状況によっては発生の可能性が異なることがあります。



※地震は、市域に最も大きな被害をもたらすと想定される「奈良盆地東縁断層帯」の液状化危険度をまとめたものです。



南海トラフの巨大地震震源域

- トラフ軸
- 新たに公表した強い揺れを起こす断層域
- 2003年に公表された強い揺れを起こす断層域

木津川市で想定される地震

木津川市を襲う地震の想定被害

市を襲う地震のうち、特に大きな被害を及ぼす恐れのある地震として、以下の6つの地震を想定しています。

断層・地震名	生駒断層帯	木津川断層帯	奈良盆地東縁断層帯	和束谷断層	東南海・南海地震	南海トラフ地震
断層の長さ(km)	38	31	35	14	—	—
マグニチュード	7.5	7.3	7.5	6.7	8.5	—
最大震度	7	7	7	6強	6弱	6強
全壊棟数	6,410	8,850	12,040	3,420	710	720
半壊棟数	7,870	8,190	8,310	5,600	2,760	—
焼失建物	1,400	2,200	3,120	780	170	20
死者数	270	330	470	110	10	30
要救助者数	1,240	1,580	2,240	520	110	110
避難者数(短期)	20,620	24,550	29,720	11,370	4,790	—

※京都府被害想定(平成20年)

※京都府地震被害想定調査報告書(平成20年)より抜粋。死者、住家全壊、避難者数は、市内の想定被害数です。

※マグニチュードとは、地震が発するエネルギーの大きさを表します。

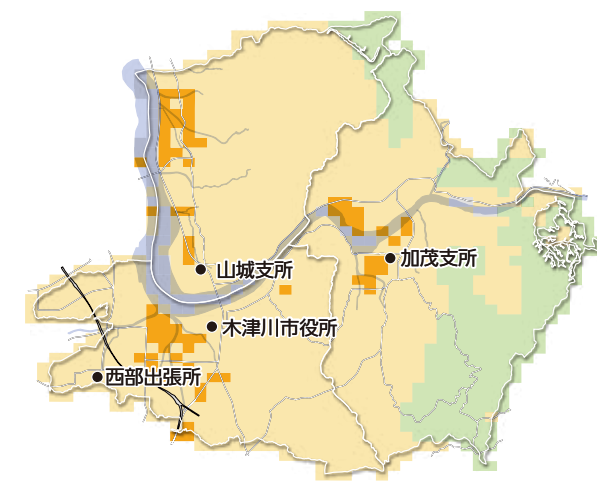
マグニチュードM=1.0の増加でエネルギーは約32倍の大きさになりますが、最大震度は震源からの距離や地盤条件によって異なります。

南海トラフの巨大地震を知っていますか？

南海トラフは、2つのプレートが衝突して海洋プレートが沈み込んでいるため、非常に活発で大規模な地震発生帯です。これまで南海トラフ沿いで発生する大規模な地震は、「東海地震」と「東南海・南海地震」のそれぞれに、個別に対策を進めてきました。しかし、東海地震が発生していないことや、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震のような、

これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波による災害が発生したことを踏まえ、「あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波」を想定する必要性が高まりました。

このような状況の中、防災対策推進検討会議(中央防災会議)では、南海トラフの巨大地震の地震予想を公表しました。



想定震度 凡例

- 震度 5 強
- 震度 6 弱
- 震度 6 強
- 計算対象外

※想定図の詳細は、京都府マルチハザード情報提供システム

URL <http://multi-hazard-map.pref.kyoto.jp/top/top.asp> でご覧いただけます。